

# 心理学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
担 当 教 員	藤澤 美穂 准教授		
対象学年	1	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	前期		

## ・学修方針（講義概要等）

心理学は、「こころ」を科学的にとらえる学問のひとつであり、人間を探求する学問である。心理学では人間のもつ「こころ」の動きを理解するため、知覚・行動・感情などを対象とした実験・調査等がおこなわれ、また観察等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。テレビや雑誌等で日常的に目にする「心理テスト」は、心理学から得られた知見をわかりやすく抽出したものではあるが、学問としての心理学においては、概念の定義、論理の整合性、科学的方法論等が重視され、より学術的で厳密な態度が求められる。

本科目においては、心理学の歴史に沿って、心理学における基礎と応用の両視野を学ぶ。また学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、健康心理学、産業・組織心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きと行動への影響を考える。

本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付けることを目指す。

## ・教育成果（アウトカム）

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学び、ものごとを心理学的視野により説明することができる。
2. こころと行動の理解を通して、個人・社会において生じる現象を相互作用的にとらえ、説明することができる。
3. 見えない“こころ”を理解するための多様な方法を学び、現象の背景を探求するための視点を得ることができる。（ディプロマポリシー：1,2,3,4）

## ・到達目標（SBO）

1. 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解し、説明できる。
2. こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様な視点を身につけることができる。
3. 個人と他者、個人と集団の相互作用について理解し、説明できる。
4. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観への配慮をもち、行動することができる。
5. 自分の「こころ」への興味関心を高く保つことができる。

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
6/11	火	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>心理学とその歴史【双方向授業】 【ICT(Mentimeter)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学の誕生までの歴史を説明することができる。</li> <li>2.見えない“こころ”へのアプローチ法について、述べることができる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 1～12 ページを読む。 事後学修：WebClass の#1 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p> <p>[C-1-2-3]</p>
6/18	火	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>心理学でいう「学習」について【双方向授業】 【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学の「学習」の定義を述べることができる。</li> <li>2.古典的条件づけについて説明できる。</li> <li>3.オペラント条件づけについて説明できる。</li> <li>4.行動主義とそれまでの心理学との関係について、述べることができる。</li> </ol> <p>事前学修：前回講義で出された課題に取り組む。 事後学修：WebClass の#2 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p>
6/25	火	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>認知心理学-特に記憶について【双方向授業】 【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.認知理論が重視されるようになった経緯を説明できる。</li> <li>2.記憶のモデルについて説明できる。</li> <li>3.Miller の直接記憶範囲について説明できる。</li> <li>4.知覚的防衛について、説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：前回講義で出された課題に取り組む。 事後学修：WebClass の#3 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p>

7/2	火	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>社会心理学の視点から「集団」を考える【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.認知的一貫性理論について、身近な例を当てはめ説明することができる。</li> <li>2.同調行動について、説明できる。</li> <li>3.パーソナル・スペースについて、説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 182～195 ページを読む。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p> <p>[D-2-1-1-1]</p>
7/9	火	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>臨床心理学の基礎【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.臨床心理学の歴史を説明できる。</li> <li>2.臨床心理学の主要 4 領域を述べることができる。</li> <li>3.愛着について、説明できる。</li> <li>4.多職種連携にかかわる心理職（公認心理師・臨床心理士等）の職能について理解し、説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 116～124 ページを読む。 事後学修：講義資料を復習する。</p> <p>形成的評価：WebClass による「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p> <p>[C-1-3-5,C-5-1]</p>
7/16	火	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>ストレスの心理学 【双方向授業】【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ストレスの定義を述べることができる。</li> <li>2.ストレスに関するところと身体的相关性を説明できる。</li> <li>3.心理的ストレスプロセスモデルについて説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：現代人のストレスについて、インターネットで調べる。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。 WebClass の#6 ワークに取り組む。</p> <p>[C-5-2,D-5-9-1]</p>

7/23	火	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>働くことの心理学【双方向授業】 【ICT(Mentimeter, WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.職業性ストレスモデルについて説明できる。</li> <li>2.バーンアウトについて説明できる。</li> <li>3.ワーク・エンゲイジメントについて説明できる。</li> <li>4.ワークライフバランスについて、自身の意見を述べるができる。</li> </ol> <p>事前学修：仕事におけるストレスについてまとめる。どういう職場環境で働きたいかまとめる。 事後学修：WebClass の#7 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p> <p>[C-3-3-1]</p>
7/23	火	3	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>思春期青年期の理解【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.思春期と青年期の概念を理解し、述べるができる。</li> <li>2. 青年期の発達課題を理解し、説明することができる。</li> <li>3. アイデンティティの確立について理解し、これからの学生生活に活かせる視点を列挙することができる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 126～130 ページを読み、まとめる。 事後学修：講義資料を復習する。</p> <p>[D-2-1-2-3]</p>

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	図説心理学入門 第2版	齊藤勇（編）	誠信書房	2005
参	心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで	越智啓太（編）	創元社	2016

・成績評価方法

**【総括評価】**

前期試験成績を80%、講義中・後に実施するワーク（課題）への取り組みを10%、確認テスト（4回目、6回目）の成績を10%として評価する。前期試験はMCQ：多肢選択式問題と論述問題を出題する。ワーク（課題）への取り組みは、提出（入力）された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「ワーク（課題）評価基準」に従い採点する。

**【形成的評価】**

5回目の講義にてWebClassより「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果はWebClassからフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。また WebClass によるワークやコメント入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果と解答は WebClass にてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれでも参加可能である。

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。講義中、事前学修内容を WebClass に入力する時間を設ける。事後学修については毎回配布される講義資料と教科書等を用いておこなうこと。

各回講義に対する事前学修の時間は 60 分以上を要する。各回講義に対する事後学修の時間は最低 90 分以上を要する。定期試験前には 10 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

[事前学修・事後学修のポイント]

事前学修：次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。参考書、その他の資料に基づいた学修も推奨する。

事後学修；わからなかった内容は、講義にて示した教科書の該当箇所を確認し理解を深めること。また興味をもった箇所は図書館の文献などで調べること。

学生からの授業に対する意見や質問については、WebClass のメッセージから随時受け付ける。授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

定期試験の後にフィードバックとして WebClass を通じた解説もしくは補講を実施する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD (BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成